

学都屋台食談

第4回

金沢で過ごす学生生活の意義や仕事観・人生観を、石川県に拠点を構える企業経営者や大学学長らが講師となり、講師の経験をもとに学生と語る「学都屋台食談」が11月10日から12月2日にかけて、金沢市の片町中央味食街で開催されました。2006年から今年で12年目を迎え、講師と県内の大学に通う学生が和やかに繰り広げた食談で、講師が学生に熱く語られたメッセージを紹介します。第4回は石垣和子・石川県立看護大学学長。

石川県立大学法人
石川県立看護大学
ISHIKAWA PREFECTURAL NURSING UNIVERSITY

考え続けることで可能性が無限に

「苦しい時を支える『心のふるさと』」 石川は自分の原点に戻れる場所に

私は、生まれてすぐに石川を離れ、東京で育ちましたので、故郷と言える場所は東京ということになるのでしょうか。ただ、いまだに故郷とは思わずにいます。ご存じのように東京は人間関係が希薄で、どうしても寂しさを感じていました。学長に赴任して7年目になります。石川ならば知らない人でも友達になつてくれると思える、心の温かさを感じます。

これから皆さんは、どんどん新しい世界へ羽ばたいていくことになりました。順調な時もあるでしょう。出口が見えないほど苦しい時があるかもしれません。そんな時によりどころとなるのは、「心のふるさと」です。自分の原点に戻ることができる場所を持つていれば、もう一度立ち上がって頑張ることが出来ます。

「人生80年」と言います。多感な20歳前後の4年から6年間で石川で過ごすのですから、あとで振り返った時にとても大事な時間だったと思うでしょう。石川は、学ぶ意識が高い土地柄であり、この場所を見て、考え、感じることはあなたたちの感性を高めてくれます。

「勉強だけに時間を割かず」 あらゆることに興味を持つ

大学で学問に打ち込むことは学生の本职工作でしょう。ただ、勉強だけに時間を使うのはもったいないと思います。現代社会は情報やものがあふれていますので、自らがアンテナを伸ばして、知らないことに気づく必要があります。

皆さんの頭の中は、ほとんど色が塗られていないキャンバスですので、いかようにも絵を描くことができます。学生時代は、自分が見聞きしたものを吸収する絶好の機会、だと言えます。皆さんの勉強に向いているアンテナを、スポーツや芸術、政治といったさまざまなジャンルに向け、人間的な幅を広げてください。

私は大学時代、なぜ脳によって理解した



参加生

前列左から西村香奈さん(北陸大学6年)、山本菜津美さん(石川県立看護大学4年)、後列左から新田彩佳さん(金城大学3年)、華岡眞生さん(金沢大学6年)、丸山諒さん(金沢工業大学3年)

企画/榊都市環境マネジメント研究所

「考えることで自我が芽生え」 他者との違いが明確に

人は、考える生き物です。成長するにしたがつて、さまざまなことを深く考えるようになります。次第に自我が芽生えていきます。自分で物事を考え、自分なりの答えを持つてください。それは、人生を歩む上での指針となります。そういつたものさしがあれば、他者との考えの違いをはつきりと感じるようになります。

これから皆さんは、いろんなことを学び、いろんな人と出会う中で、いくつもの選択肢が目の前に現れるでしょう。そして、一つの道を選ばなければならぬ時が来ます。正しい道を選ぶには、考え続けることが求められます。考えれば考えるほど人生の可能性は無限に広がっていくでしょう。そうすれば、目標とする自分に近づくことができると思います。

これは大学時代、なぜ脳によって理解した



講師

石川県立看護大学
学長

石垣 和子氏

いしがき・かずこ

1944年石川県金沢市生まれ。東京大学医学系研究科修了後、東京都神経科学総合研究所研究員となり、1979年から保健師を14年間務めた。看護教育に活躍の場を移し、浜松医科大学、千葉大学などの教授を歴任。2011年から現職。